
つくばみらい市立福岡小学校区における意見交換会

《 平成 28 年 12 月 21 日（水）午後 7 時 00 分～ 福岡小学校体育館 》

1. あいさつ

2. これまでの経緯

3. 『つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画』について

4. 今後の進め方について

事務局： それでは、2. これまでの経緯、3. 『つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画』について、4. 今後の進め方について事務局よりご説明いたします。

《事務局から説明》

5 質問・意見交換

事務局： 事務局からの説明は以上となります。それでは、これまでの説明につきましてご意見、質問等を頂きたいと思っております。

市民： 谷原小学校を廃校にすべき。昨年の鬼怒川の堤防決壊時のようなゲリラ豪雨が頻繁に起こっている。もしあのような豪雨が小貝川流域にあれば氾濫し、数時間後には谷原小学校は水没する。安全な福岡小学校と小張小学校を残せばいい。また超巨大地震が予想されており、地盤の悪い谷原小学校は倒壊の恐れがある。谷原小学校と小張小学校、福岡小学校と十和小学校が合併すればよい。

谷原小学校に統合になった場合の洪水の危険、子どもの安全に関してはどう考えているのか。安全を確保してから統廃合について考えるべき。

事務局： 非常に大きな被害があり、亡くなった方もいる。その通りである。福岡小学校は高台にあり、安全だと思う。しかし谷原小学校については資料2のp5にある通り、普通教室数が福岡7、十和7、谷原10と(谷原小の)規模が大きいのが現状。

市民： 谷原と小張を統合すればいい。

事務局： 最低でも20人以上、2クラス以上でクラス替えが出来る方針がいいと答申もあり、市はそうように考えている。

市民： 子どもの安全より谷原小学校について考えるのか。

事務局： つくばみらい市の子どものことを考えての事。

市民： 合併をすればよいのに、何故安全な小張小学校を廃校にするのか。

事務局： 巨大地震や水害、どこの学校であろうと同じような状況になるだろう。水害はないかもしれない。どういった状況で起きるのか定かではない。我々はその学校の中で子どもたちを預かっていくので、当然安全対策について考えていく。

市 民： その安全対策はどのようなものか。

事 務 局： 例えば水害であれば、谷原小学校は三階建てであるので上へ逃げてもらおう。いずれにしても子ども達を守るために新しい小学校を作り、安全対策をしていく。

市 民： 最大で5m以上、水没の危険がある。

事 務 局： ハザードマップによると（谷原小学校は）1m～2m程度。

市 民： それは高速道路の向こう側。こちら側は5mである。

事 務 局： いずれにしても子ども達を守るために新しい小学校を作り、安全対策をしていく。

市 民： 質問というより意見を述べたい。去年の12月13日、谷原公民館で説明会があった。

76名も参加するほど福岡の人たちは学校の存続について真剣に考えている。

なぜ福岡、三島、十和といった小規模の学校になってしまったのか、その背景を探っているのか。どういった教育環境にすれば子どもの数が増えるのか統廃合の前に考えるのが行政の問題だと思う。いきなり子どもの数が少なくなったから統廃合というのは乱暴ではないか。福岡地区には大規模のアパートが建っている。アパートがあるというのは若い人が住む場所を作っているということであり、若い人が結婚すれば子どもが生まれるのは必然である。これは行政の仕事。広報と一緒に市の教育大綱が配られた。この中でも地域と学校と教育について扱っている。繰り返し読んだが、地域が疲弊していく背景について全くわからないのは問題。行政は偏っていると思う。黙っている地域は置いて行かれてしまうのか。新しい地域は発言が多い。黙っていては何もしてくれないが、発言したら行政は答えてくれるのか。

新しい地域には多目的なコミュニティセンターが出来ている。福岡地区には福岡公民館があるが、公民館は今の時代に対応する公民館の機能を持っていないのではないかと。地域に若い人が住み着くような環境整備を考える必要があると考える。多目的なコミュニティセンターが福岡地区にもほしい。

また大きな道路が完成間近であるが、市街化調整区域ということで向こう側に住宅は建てられないということ。しかし、あの大きな道路が出来れば人の行き来が多くなる。道路の向こう側の市街化調整区域の線引きをやり直す必要があると考える。具体的には住宅を建ててもよいという施策が必要ではないか。

「1. 基本計画全般について」の2の回答の欄、「多いにある」というのは誤字ではないか。チェックもせず、教育委員会が出す資料としてどうなのか。つくばみらい市の教育委員会は自治体である。私は教育委員会に30年お世話になったが、当時の事務局長と小中学校から1から5の教育評価（5段階評価）をなくそうとした。県から反発が強く残念ながら叶わなかったが、子どもを真に評価するのは単なる数値ではなく具体的な言葉だろうという発想からだった。

市 民： ここは教育論ではなく統廃合をどうするかという場だ。

市 民： 難しい問題だと思うが、過去にこういったこともあったのだと踏まえて学校の統廃合について考えてもらいたい。私は学校の統廃合については反対の立場である。10年先を見ているようだが、統廃合をして福岡小学校が廃校になった時、10年経った時に生徒数が増えたらどうするのか。

事務局： 政治的なお話や子どもの数を増やす方法について提言を頂きました。我々教育委員会は、道路ができるこの地区はますます発展に向かうのではと期待している。また、子どもたちの教育の場をいかに改善するかを保護者や地域の方々と考えていきたいと思っている。答申・計画等はこのように示しているが、皆さんと考えていくつもり。引っ越してくる人々にも期待はしたいが、今のままでは減ってしまう。子どもの数を増やして一つの学校にしたいと考えている。

市民： つくばみらい市適正配置審議会があるが、福岡地区からは誰が参加しているのか。

事務局： 福岡地区ということではなく、全ての小学校のPTAの代表、公募、議会の代表、学校の先生の代表といった方に全体の事を考えて参加してもらっている。

市民： 統合し、廃校になった学校のその後はどうなるのか。有効活用案などを教えてほしい。

事務局： 市としてはそういった案はまだない。こういった話を含めて地域の方々と話し合っていきたい。例えば、先ほど意見があったようにコミュニティセンターが欲しいといった方もいる。我々としては保護者を中心としてまずは今の子どもたちをどうするのかを考えていきたい。学校の施設を違う用途にするのか、極端な話、更地にして新しいものを建てていくのか、皆さんと話し合いたい。

市民： 廃校後の利用が決定してから統合について決定していくということか。

事務局： ある程度平行しながら進めていきたい。

市民： 3つの小学校が統合になるということで福岡小よりも大きい谷原小を選定したのだと私は思っている。コンサルタントや専門家と予算についても検討したのだろうと思うが、一番大事な教育環境や人数等現状は何ら問題がない。谷原小地域等は2、3年後、また10年後減っていくだろう。しかし福岡地域は新しい道路の向こう側、つくばみらい市は32haの工業団地を、そしてその中に保育所、住宅を作ろうと進めている。そうした中で福岡小が無くなる背景について説明をしてほしい。

事務局： キャパの問題があるということもあるが、今回の市内全体の計画は一小一中で考えている。小絹小と小絹中、谷原小と谷和原中、谷井田小と伊奈中、板橋小と伊奈東中、という順。市としては、小中が連携して子どもたちを9年間育てていこうという教育を何年前前から進めている。谷原小と谷和原中は隣接しているので先生方が交流をしており、中学校から先生が専門的なことを教えに来ている。あるいは子ども達と一緒に挨拶運動をするといったこともしている。そういった意味でも進んだ小学校である。

市民： 谷原小は最も危険な場所ではないか。

事務局： 昨年の12月にも水害についてどうするかという意見をいただいた。各学校で防災計画を見直し、真剣に考えるきっかけになった。それ相応の計画を練っている。意見はその通りであるが、統合すると言うのはそういうことである。

市民： 事務局は小中学校を1つにと言ったが、地理的に谷原小学校と谷和原中学校はたまたま近かったから良いが、遠ければ小中一貫にはできないのか。小中一貫授業は小学校の授業とはどこが違うのか。

市民： 谷原小学校を選んだ大きな理由はその2つということか。極論を言えばプレハブを作ればよいのではないか。3、4年後には福岡工業団地が出来るのに福岡小学校を無くしてし

まうのか。私たちはずっとここに暮らす。コンサルタントや事務局の方からすれば数字を合わせるのも大事だと思うが、地元の意見が何も入っていない。

事務局： 統合には逆に予算がかかる可能性もある。一概には言えず、また金銭の問題ではなく、今いる子どもたちのことを考えている。

市民： 今のことを考えてというが、これは、2年3年の問題ではない。政治というのは10年後、20年後の将来を見据えるべきではないか。子どもの幸せを考えるとというが、統合によって幸せでなくなる子もいるのではないか。谷原小や十和小は、現状児童数は下がっており、この先もぐんぐん少なくなっていく。

今のことを考えているというのなら、現状福岡は児童数が減少していない。約130年続いている福岡小学校は文化の中心。つくばみらい市の中でも歴史が残っているところではないだろうか。それが無くなる可能性があるのは孫の代まで汚点を残すことになる。

事務局： 強制的に進めるつもりはない。

市民： 資料2の5ページを見た時、将来的には十和、谷原は複式統合になるということで、災害・水害がいつ起きるかわからない中で、地域のことを考えて谷原小という回答が出たのだと思うが、受け入れの問題がやはり最大の要因。予算の問題もあると思うが、小中一貫校の話も含めて、福岡の地に学校を残すというのも選択肢の一つではないか。

事務局： 5ページの人口推計をみると安定しているのは福岡小学校。あくまで推計なので将来どうなるかは定かではないが、目安として載っているのがほぼ横ばいの形。人口や児童数が減っているのは全国的なものであり、日本の人口も8千万人ほどになると言われており、つくばみらい市も4万人ほどになると推計されている。先ほどの工業団地が完成したら住宅も少しは出来るだろうというお話したが、それで人口が増加すれば我々としても嬉しい限り。また、小中一貫については、谷原小と谷和原中はちょっと歩けばどちらにも行けるので、先生達も隣にあったほうが行き来がしやすく、スケジュールを度々立てなくてもよくなる。ところが車に乗って約15～20分、往復で倍の時間になってしまい、頻繁な交流が難しくなるのでやはり一貫のほうが良いと考える。

市民： 新しい小中一貫校というのは新築になるのか。それを今の所に作るのは無謀ではないか。そうであれば高台に移転したらいいのではないか。

事務局： 新しい小中一貫の義務教育施設は、造りません。現在ある施設を使用して教育を行っていきます。

市民： 防災関係の話になるが、昭和13年の大水で大沼という釣り堀が決壊した。福岡村、十和村、谷原村は水浸し、押砂の部落は床下浸水、十和小は今のように鉄筋の大きな学校ではなかった為、平屋の軒先まで水をかぶった。それほど高低の差があった。もし再び決壊したら水のはけ場がない。常磐道は高架にしてもらったほうがいいだろうという意見が当時役場には多く寄せられたが、完成した常磐道は堤防のようであり、市役所もみらい平のような場所ではなく、何故あんなにも低い場所に建てたのだらうと感じている。

また、この統廃合の問題について、福岡小学校の先生方はどう考えているのか。当事者の先生方の意見は聞いているのか。資料によると地元、保護者の方含めて反対している中では一方的に統廃合は進めないと書いてある。しかし計画書には平成33年に統廃合を行う

と書いてある、これは教育委員会では既定方針であり、何を言っても進めるのであれば意見を聞く必要はないのではないかと。

事務局： まずスケジュールの件についてですが、「市の考えはどうか、どのように進める予定なのか」というものが見えないと無責任だろうという話から審議会の意見を尊重しつつ、この計画書をまとめました。まとめた上でこのスケジュールの進め方についてはこのような形で今後話し合いをし、色々な悩みや不安を一つ一つ解決しながら進めていきたいと考えている。平成33年度には新しい学校を作っていきたい、その為に話し合いをしたいという目安である。

市民： 反対の声がなくなるまで話し合いを続ける、ということか。

事務局： 100%なくなるまでやるのかは現段階不明であるが、まず今通っている子ども、これから入学する子どもの保護者について重要視しなければならないと考えている。

市民： 話し合いをここで2回している。平成33年までにやると明文化しながら矛盾した話である。学校教育課の先生方が来ているわけだが、教育委員会は自治体。学校教育だけが教育委員会の仕事ではない。家庭教育、社会教育など、幅広く色々考えてほしい。教育に関する政治をやっていくのが教育委員会。

市民： 現在、谷原幼稚園に通う子どもがいる保護者。沢山聞きたいことがある。前回は参加し、そのまま1年後になった。前回は反対意見が多く終わったが、今回既に予定が決まっているような状態であり、何故このような形で資料になっているのかわからない。

また、先ほど小張小と谷原小を合併したらどうかという話があったが、資料によれば1クラス20人以上いけばよいということ。しかし、30年度の推計だと、谷原小は10クラスしかない為、もし全ての学年を2クラス作ろうとするとクラス替えが出来ず、1クラスを1つに分けなければならないということになる。問題ない人数を確保できているのか、統合することを前提で20人という形で決めているのか聞きたい。

将来的に谷原小学校は統合を行っても全ての学年が2クラスにはならず、クラス替えが全く出来ずに20、30人になる形。ならば中学校が（仮称）富士見ヶ丘小学校と一緒にになるので、全ての小学校もここに統合することを考えていないのか。

統合を行うときに谷原地区や十和の真木地区の子は（仮称）富士見ヶ丘小学校の方が近いので、歩いて通学できる子がいる。そうすると学校の変更を申請する家庭が出てきて、谷原小学校の人数が更に減るといった可能性についてどう考えるか。

統合された場合こちらから通うのは大分遠くなるため、必ず車を使うと思う。駐車場の設備は十分に確保できるのか。幼稚園では駐車場の確保が難しいため親御さんが参加する行事が出来なくなってしまったということもある。

統合になった場合バスが出るという話だったが、バスのコースはもう検討しているのか。昨年の説明会の意見にもあったが、資料1の質問11の「みらい平に転入された方は、小学校・中学校ができるということが前提となって転入されている」という回答は、みらい平に新たに中学校が作られるということか。

残った小学校の跡地利用についての話だが、色々と話が進んでいると思っていたが何も考えてないようで唖然とした。早急に統合を考えているのならば何か提案をしてほしい。

事務局： 反対意見が多かった中で計画を樹立した経緯については、この統廃合について我々は子どもたちのバランスに非常に支障あるということ、他の説明会でもPTAの方からドッチボール大会に出たかったが人数が足りずに出ることが叶わず残念に思ったという意見があった。やはり、ある程度人数がいたほうが良いと考えられる。また、今のように疑問を持っている方はたくさんいると思われるので、賛成反対を突然決めずに一つ一つ解決して話し合っていきたい。5ページの単純人口推計を足しても全ての学年では2クラスにならないので10クラス分あればよい。多くなれば数年後増築をするなり、伊奈庁舎のようにプレハブを作るなり考えられる。(仮称)富士見ヶ丘小学校の近隣の方は気になると思われるので学区について、検討を考えている。

市民： 検討というのは、制限などをかけて行けないようにするということか。

事務局： (仮称)富士見ヶ丘小学校にも規模もあり、その辺の兼ね合いとなる。

市民： 陽光台小学校の教室数が30教室であるのに33クラスになりクラスが足りなくなったことがあったと思うが、この規模で問題ないだろうということで建てたものが一年間とはいえ不足してしまう事態はどうなのか。

事務局： 陽光台小学校の場合は、30年4月まではこの規模で問題ないという人口推計で想定がされていたため、あの規模で建築をした。しかし予想を上回る児童数となったので、現在、改築を行っている。1年間のみとはいえ不足してしまう状況。国の補助金をもらいながら改築をしているが、3年の範囲内であれば規模を大きくすることが可能。その為、児童が増えていくたびこまめに増築改築をするという形になる。

市民： バスが出るのならば小規模の小学校に通わせなかったという意見を聞いている。そういった意見はアンケート等を使って聞いているのか。

事務局： みらい平地区では学校がない間は周辺の学校にお世話になっていた。陽光台小学校が出来る時、陽光台小学校と今まで通っていた小学校のどちらの小学校に通学するか選択してもらった。その結果、それまで通っていた小学校に残った方もいる。小張小も結構な人数がいたと思う。行政の都合で少し語弊がある言い方だが陽光台小学校の建設が遅れ、周辺の遠い学校に通ってもらわなければならない為に行政でバスを確保した経緯があるが、その後歩ける距離に小学校が出来たため、スクールバスを廃止したという経緯である。

谷原小学校の駐車場の件については、隣が谷和原庁舎であり、最近スペースを広くしたため、こちらに止めることが可能だと思われる。谷原小学校の保護者が送り迎えをすることが多く、現状でも数台止まっている。

市民： 天気に関係なく送り迎えされている方がいると思うが、以前バスが十和と福岡、谷原小学校に振り分けでバスが出ていて不満や反対があったと聞いた。

事務局： 統合した場合、スクールバスルートやバス停の位置などは、通学する児童にあわせ変更して行く必要があると考える。皆さんと話し合い決めていかなければならない。

また、跡地利用の件は、統合が正式に決まっていない段階で、市が勝手に決めてしまうのは、どうかと考える。

市民： なぜ福岡小学校がなくなることを前提で話をしているのか。

事務局： 仮に統合したらどうなるのか、という話をしている。今あった質問は全て重要な質問で

解決していくべき問題と思っている。

質疑応答の問 11 に中学校が約束されているという話がある。これは平成 5 年の時に都市計画決定が為されている。当時の伊奈町に小学校、谷和原村に小学校と中学校ということで県の開発に要望し、計画されている。現段階では、人口推計が正しければ中学校の建設はしなくてもやっていけるだろうという段階である。問 11 にあるとおり最終的には今後の諸々の問題を検討して考えた結果難しいという結論になった。

市 民 : 中学校建設するということか。

事務局 : 現段階では何とも言えない。

市 民 : 可能性がないと言い切れない場合、小学校を統合して中学校のシミュレーションはしていないのか。

事務局 : みらい平については決まっていない。今ある中学校（伊奈中、谷原中）の利用を考えている。

市 民 : 谷原小に行くのにスクールバスを出す地区、出さない地区があつて、子どもは何が起きているかわからない。これは子どものためになるのか。子どもが朝 6 時半までにバス停に着くために朝 6 時に起き、親が意地でも乗せていたという話も聞く。この辺りについても考えてもらいたい。

事務局 : スクールバスのルート、バス停の位置、所要時間などこれから皆さんと考えつつ調整させてほしいと考えている。

市 民 : 市からはたくさん来ているのに、現在子どもを学校に通わせている P T A の親御さんの出席者が少ない。福岡小学校と地域の結びつきは校章を見ればわかるように、「フ」が九つ並んでいて、これは「九つの幸福（コウフク）の丘」を意味していて、そうして小学校の校章は決まった。今日の説明会は人数が少ない。説明会はこの寒い時期ではなく、農繁期は外すとしても人が集まりやすい気候の時に行ってもらいたい。そうすればもっと意見が出ると思われる。

市 民 : 小張小学校は何故、廃校になるのか。

事務局 : 小張小学校については陽光台小学校と統合する予定になっている。福岡小学校と違い、児童数の減少が顕著である。先日意見交換会を開催している。

市 民 : あの辺りは人が沢山いるのだから学校を再編して小張小学校に通わせれば良いのでは。

事務局 : みらい平地区には様々な地域から人が集まっており、近くの家に住んでいる人についてもよく知らないといった状況がある。まちづくりにおいて一番大切なのは、地域の繋がりであり、それができるのは学校。まちづくりのコミュニティとして必要であり、子どもが沢山いるとはいえ簡単に地区を振り分けることは出来ない。荷物のようなものを移動する話ならばいいが、友達関係もあるので非常に難しい。

市 民 : 今まさにそれをしようとしているのでは。

事務局 : 福岡地区は学校単位の話である。

市 民 : 小張地区周辺 2km くらいを合併してしまえば小張は立派な学校になり、文化が育つ。何年か経てばそれが育つのではないか。

事務局：　そういう考えもあると思うが、その線引きをしてしまうと引かれた所から境目が出来てしまう。集落のコミュニティを育てたいので難しい。陽光台小学校の説明会の時に、もしここで仮に区切って学校を振り分けることは考えられるかと聞いてみたところ、行かないという方が多かった。諸々の条件がある為、なかなか簡単にはいかない、難しいと思う。

市民：　先ほどの水害の件ですが、可能ならば福岡小学校に統合してほしい。教室は建物を増やせば解決する。近くても気軽に行けるわけではない。ぜひとも検討してもらいたい。福岡小学校のPTA会長をしているが、統廃合に関する打ち合わせに4月から一度も呼ばれていない。委員会は実施されているのか。

事務局：　平成28年度は行われていない。

市民：　つまり意見はこの場でしかお伝えできないということか。去年は統廃合に関する委員会はあったのか。

事務局：　平成27年度は、審議会を開催している。11月に適正配置に関する答申をいただいた時点で審議会は解散している。

市民：　資料2-5に福岡小学校は谷原に統合するという話があったが、今の方と同様の意見であり、福岡小学校に統合したらよいと思う。この表のみを見ると福岡小学校を残してほしいと感じる。福岡小学校は安定しているのにも関わらず、何故、吸収されるのか疑問。納得いかない人がいるのではないかと思う。福岡小学校に統合するか、もしくは単独でもやっていけるのではないかという意見もいいアイデア。まちづくりに関しても大きな道路で発展が期待できる地域であり、学校を廃校にしてしまうとますます過疎化してしまうのではないか。発展のブレーキをかけてしまう危険性がある。まちづくりが大切だということがあるので福岡小学校を残して、教育を守ることも大切だがこの地域を発展させるために、過疎地防止政策として残していくのもとてもいいのではないかと意見を述べさせて頂く。

6. 閉会

事務局：　たくさんのご意見・ご質問ありがとうございました。以上を持ちまして閉会させていただきます。本日はありがとうございました。

以上